

# 名事研=ユース

名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会  
<http://meijiken.sakura.ne.jp/>

No. 140

平成22年 6月 9日

発行 名古屋市立小中特別支援学校

事務研究協議会 情報部

発行責任者 早川 数幸

4月23日、名古屋市教育センターにおいて平成22年度定期総会が開かれ、平成21年度の事業報告等の審議がされました。平成22年度事業計画、予算案等についても承認され、今年度の名事研活動がスタートしました。

## 新たな仕組みでの実践を！

会長 中村 紀子  
(前津中学校)



名古屋市教育委員会では平成19年度より「なごやっ子教育推進計画」を策定し、保護者や地域とともに歩む安心で安全な学校づくりや教師力のいっそうの向上、家庭、地域の教育力の向上をはかることを目標に、事業を推進しています。その中で新たな課題等に対応できる教育システム等の整備についても名古屋独自の教育条件整備をはかることが述べられています。

そのような中、平成20年度より学校事務の学校間連携の実施が始まり、順次拡大されてきましたが、今年度は55ブロックにおいて実施され、名古屋市立の全小中学校が取り組むことになりました。連携では、ブロック全体で事務の適正化や効率化をはかり、安定した学校運営を実現することにより子どもたちの教育環境の充実をはかることが求められています。各ブロックでは少経験者のサポートや事務処理の相互チェックをとりかかりとして、創意工夫しながらさまざまな実践に取り組んでいるところです。

私たち学校事務職員の仕事の目的は、未来を担う子どもたちを育てるため信頼される学校づくりをすすめていくことであり、学校間連携もその目的を達成するための1つの仕組みであるはずです。

学校間連携は教員の負担軽減だけでなく、学校事務を1校ではできなかった新しい領域に広げていく可能性を持っていると思います。

一人ひとりが強い自覚をもち、コンプライアンスの確保はもとより、資質向上に取り組むとともに、この新しい仕組みを積極的に活用し、個人で、また連携ブロック単位で目標を設定し、できることから実践をしていくことで、より効果的な仕事の単位や方法等を考えていく必要があります。

名事研は今年度50周年を迎えます。節目の年にあたり、学校間連携という新しい仕組みを活用することで、名古屋の学校事務の新たな1ページを開いていくことができるのではないのでしょうか。教育委員会や校長会始め関係諸団体とも強力に連携し、課題を解決しながら、より良い名古屋の学校事務となるよう実践をすすめていきましょう。

## 平成22年度 名事研活動について

副会長 内藤 洋子  
(赤星小学校)

「子どもたちの輝く未来と学校事務の明日へ ～つなげる想い！高めあう力！～」

名事研の年間テーマは今年度で3年目になりました。子どもたちの未来をよりいっそう輝くものにし、学校事務の明日を信じさらなる向上を目指して、各区世話係、会員の皆さんとともに名事研事業を進めていきたいと考えています。

今年度は昨年度の2つの重点項目、「名古屋の学校事務のグランドデザイン」「名事研組織運営体制」について引き続き検討を重ねていきます。「名古屋の学校事務のグランドデザイン」については、目指す学校事務と学校事務職員像を具体化しそれをどのように実現していくかを念頭に置き、皆さんとともに考えながら策定に向けて取り組んでいきます。「名事研組織運営体制」については、昨年度の事業評価結果を踏まえ、名事研活動のさまざまな課題を整理し、名事研事業の精選や各々の役割を明確にできるよう、世話係や会員の皆さんからご意見をいただきながら進めていきます。そして、より良い組織運営体制となるように会則改正も含めて整備していきたいと考えています。また、今年度は名事研50周年の記念の年でもあります。これまでの名事研活動を振り返り、今後の学校事務についてともに考えながら、50周年の記念事業を、各区研究会等と連携をはかり協力を得ながら行っていきたいと思っています。

事務局においては、名事研事業を効果的・効率的に推進していくために専門部等と連携をとりながら取り組んでいきます。研究部では、学校事務職員の役割等についての研究と今後の学校事務の方向性について探っていきます。研修部では、全体研修会と基礎研修会の企画運営を行います。総務部では、市研究大会と総会の準備運営を中心に行います。情報部では、情報の共有化、学校事務の効率化・高度化を目指し、また必要な情報マネジメントについて検討を進めていきます。

その他、平成23年度版学校事務ハンドブックの編集は、北区学校事務研究会が担当します。また、今年度東海地区公立小中学校事務研究大会が名古屋で開催されます。実行委員会と連携をはかり積極的に協力していきたいと考えています。さらに、政令指定都市間の情報交換や、諸団体や組織との連絡調整を行います。

各区研究会、学校間連携等さまざまな連携を強化しながら、教育目標を実現していくために積極的に名事研活動を推進していきましょう。会員の皆さんのさらなるご協力をお願いします。



# 事務局長 専門部長 あいさつ



## 研究部

研究部長 榊原 功剛

学校間連携が全市で実施されることになりました。学校現場の多忙化の中で、目先の仕事をこなすだけでなく、子どもたちの教育環境整備に役立つものとするように、私たちの力を生かすことが求められています。学校間連携の発展性の類型、最適な組織単位について、会員の皆さんとともに実践につなげていくことができるよう継続して研究していきたいと思ひます。



## 総務部

総務部長 服部裕実子

時間の大切さを思うことがありました。命の時間と、仕事をしているときの時間はなかなか同じには考えられませんが、時間は自分で作ることでできるものでもありますから、うまく作っていききたいな、と思っています。

今年度の総務部は、市研究大会・定期総会では、今まで積み重ねてきたマニュアルを、さらにスムーズな運営に役立てたいと思っています。要覧・事務職員名簿の作成発行と重要通知文集の更新作業、各種研究大会の案内・集約、会報等の配付を行います。皆さんのご協力をお願いします。



## 事務局

事務局長 加島 道代

皆さんにとって名事研とは何ですか。重点項目である「名古屋の学校事務のグランドデザインの策定」「組織運営体制の改革」そして「名事研50周年事業」、これらを検討していく中で、「名事研とは」をもう一度自分なりに考える機会になるでしょう。会員の皆さんも区研究会で、世話係会で、専門部会で是非考えてもらいたと思います。そして、その考えを事務局へ伝えて欲しいと望んでいます。自分たちの「名事研」を自分たちで創っていくために！



## 研修部

研修部長 遠藤 剛

人間は、自分にとって訳の分からないものや理解を超えたものを見たり体験したりした時に刺激を与えられ「脳が喜ぶ」そうです。

どんな年齢や経験年数であれ私たちは新しい「経験」をし、「変化」します。研修部では会員の方々の「経験」を「成長」に繋げるためのサポートをしていくため、部員一丸となって研修会を企画し、研修のあり方を考えています。若いメンバーで皆さんの力添えを頂きながらやっいていこうと思っていますので、ご意見ご要望などありましたらよろしくお願ひします。



## 情報部

情報部長 早川 数幸

学校事務職員は、自分達の仕事を外部に発信することが苦手の人が多いと言われています。しかし、我々の仕事は、子どもたちの学びを支え、将来に寄与する誇るべき仕事ではないでしょうか。情報部では、会員へ役立つ情報の発信はもちろん、職場内外に、もっと自分達の仕事をPRする方法について検討し、学校事務に興味・関心を持ってくれる人が一人でも多くなるように活動します。





講演 「名古屋で人を育てる喜び」

講師 名古屋市教育センター 所長 寺崎 敏博 様

教職員の不祥事が相次いで発生しており、教職員のコンプライアンス意識の向上が喫緊の課題である。行動に迷ったとき、「思無邪（思いよこしま無し）」という言葉の思い出してほしい。自らの行動に偽りはないと、第三者の目で自分の行動を見つめてほしい。また、名古屋の事務職員の皆さんは全国でも先駆けた取り組みを実践していることに自信と誇りをもち、学校経営スタッフとしての自負をもって取り組んでほしいと話されました。

次に、職員室で仕事をされることから危機管理の場面に直面することも多いとされて、クレーム対応の基本や、人と接するときを相手に「ラベリング（決めつけ）」しないことの大切さ、個人情報保護のための高機能USBメモリーの活用等について説明されました。

終わりには、アンジェラアキの「手紙」を引用され、ご自身のこれまでの教員人生を語られる中で教員としての思いや願いについて話されました。そして、私たちは子ども達に明日を切り拓くための力を身につけさせるというすばらしい仕事をしているという誇りと矜持をもって、教員と事務職員がともに手を携えて歩いていこうと訴えられました。

平成22年度 名事研役員・専門部員等名簿

会 長	中村 紀子(前 津 中)	県事研 副 会 長	幸島 克昌(守山 東 中)
副 会 長	榊原 功剛(富 士 中)	〃 事 務 局	近藤万友美(鶴 舞 小)
副 会 長	加藤 豊子(白 鳥 小)	〃 事 務 局	安達孝一郎(は と り 中)
副 会 長	内藤 洋子(赤 星 小)	〃 事 務 局	伊藤 真也(貴 船 小)
会 計	近藤 高弘(豊 臣 小)	〃 研 究 部	鈴木 秀実(鳴 海 中)
会 計 監 査	鬼頭まゆみ(高 見 小)	〃 研 修 部	江上 愛子(菊 井 中)
会 計 監 査	新村有加里(南 陽 小)	〃 研 修 部	木村 光一(鳴海 東 部 小)
顧 問	林 敦子(幅 下 小)	〃 情 報 企 画 部	今村 京子(八 幡 小)
世 話 係 長	塩田小夜子(八 事 東 小)	〃 事 務 支 援 部	茂吉 由実(浄 心 中)
副世話係長	山崎 文恵(楠 中)	全事研 理 事	高木 英之(白 山 中)
表簿用紙規格研究委員	山内 健嗣(千 種 中)	小池ひとみ(名 城 小)	
東海大会実行委員会	実行委員長 林 敦子(幅 下 小)		
	〃 事務局 長 服部 紋子(御 園 小)		
(◎局長・部長 ○次長・副部長)			
事務局	平井 里美(今 池 中)	◎加島 道代(宮 中)	佐藤 敬子(大 森 中)
	毛利 和正(有 松 中)	○白根 勲(天 白 小)	
研究部	◎榊原 功剛(富 士 中)	濱田 光晴(桜 丘 中)	長松 軒由美(矢 田 中)
	小笠原 雅彦(大 曾 根 中)	中村 昌也(橘 小)	○田口 行博(東 築 地 小)
	安永 志穂(名 南 中)		
研修部	山内 健嗣(千 種 中)	横田 昌史(飯 田 小)	○坪井 宏之(楠 西 小)
	森 哲平(辻 小)	山崎 文恵(楠 中)	今井 まり子(枇 杷 島 小)
	山下 均(黄 金 中)	○土井 裕子(桜 山 中)	横井 智史(井 戸 田 小)
	亀井 縁(千 年 小)	◎遠藤 剛(神 丘 中)	松並 録弘(しま だ 小)
	白川 万由(野 並 小)		
総務部	井口 貴夫(筒 井 小)	近藤 有美子(東 白 壁 小)	則武 真雄(江 西 小)
	佐藤 治男(米 野 小)	佐藤 真澄美(八 熊 小)	伊藤 亜里沙(一 柳 中)
	○関水 紀子(呼 続 小)	◎服部 裕美子(宝 南 小)	田中 弘恭(熊 の 前 小)
	○慶久 正喜(千 鳥 丘 中)	柴田 一樹(緑 小)	堀端 誠子(植 田 北 小)
情報部	◎早川 数幸(平 田 小)	岡島 楓矢(瑞 穂 ヶ 丘 中)	今村 京子(八 幡 小)
	伊藤 憲史(山 王 中)	萬代 圭亮(伝 馬 小)	○土田 陽一(守 山 養 護)
	山本 展裕(牧 の 原 小)	○渋谷 高司(原 小)	